

自治体・地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業・研究

「地域貢献活動（学生によるボランティア活動）」（2023年4月～2024年3月）

i 連携している自治体・地元産業界等の組織名称

山梨県社会福祉協議会

山梨県社会福祉協議会と本学は、地域の課題解決・豊かな地域社会の創造・発展に寄与することを目的とし、2016年8月19日付で包括的連携協定を締結した。連携内容は以下のとおりである。

- ① 子育て支援等に関する事
- ② 食育の推進に関する事
- ③ まちづくり等の地域振興に関する事
- ④ NPO等の地域活動に関する事
- ⑤ その他、目的達成のため必要な活動等に関する事

ii 連携している自治体・地元産業界等の中期計画・事業計画

山梨県社会福祉協議会 令和5年度事業計画書

本学との連携事業・研究は、「推進施策1：だれもがたがなり、支え合う体制づくり 実施事業（1）市町村社会福祉協議会が行う住民の身近な地域における『支え合い』『助け合い』のための体制づくりへの支援 2 山梨県ボランティア・NPOセンターの共同運営」に関わるものである。

iii 当該連携事業・研究における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標

本学が連携協定を締結している山梨県社会福祉協議会は、ボランティア活動振興に寄与するため、山梨県ボランティア・NPOセンターの共同運営に参画している。人口減少により地域社会が縮小していくことが見込まれる中で、「地域共生社会」の実現に向けては、住民に身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して、解決を試みる体制づくりが課題である。その課題解決に向けて、本学では、学生が主体的に地域課題を把握し解決を試みようとする姿勢を身に付けることを目的とした活動に取り組む。

iv iiiの課題の解決に向けて実施する取組の内容

上記の目標を達成するために、次の取組を実施する。取組は2018年度に開始し、2023年度も継続的に実施している。全学生が「真に社会に貢献しうる力」を身につけることができるよう、地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。学生は地域貢献活動への参画により、社会に貢献するとともに、マナーやコミュニケーションなど社会人として必要な力を身につけ、豊かな人間性を培う。学生は、児童・青少年への支援活動、高齢者・障がい者への支援活動、地域の自治組織等が企画・運営する行事への支援活動、NPO団体等が企画・運営する環境整備活動、国際交流に係る支援活動を地域貢献活動として実施している。

v 連携事業・研究の計画・実績・結果

2023年度の活動実績は以下の通りである。

年 月 日	内 容
2023年4月	<p>社会人基礎力育成講座Ⅰ・Ⅱの担当者会議を開催し、2023年度地域貢献活動の実施を検討した。</p>
2023年5月	<p>山梨県社会福祉協議会による講演「地域貢献活動の意義」において、学生は地域貢献活動の目的、意義、マナー、コミュニケーション等について学習した。「ボランティアパスポート」を活用し、本学の地域貢献活動の考え方、進め方について理解を深めた。</p>
2023年5月～ 2024年3月	<p>山梨県社会福祉協議会より山梨県内の地域貢献活動の情報提供を受け、本学は「地域貢献活動ボード」を活用した学生への情報提供を実施した。学生は「地域貢献活動ボード」の情報を基に活動を実施した。学生は、社会支援事業の補助、スポーツ・福祉施設・地域でのイベント運営補助への参加が大部分を占めた。活動実施後は、「ボランティアパスポート」による自己評価を行い、各自で活動の振り返りを実施した。活動の学生の報告をもとに、2023年度の取組の総括を行った。</p> <p>&lt;学生からの意見：地域貢献活動への取組み報告（抜粋）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会や地域、誰かのために活動をすることで、一人間として成長することができた。様々なボランティアを行ったが、人との関わりは必ずあるものであり、子どもから年上の方など多くの年齢層とコミュニケーションが取れた。学校以外の場所で同級生ではない人たちと関わり、新しい価値観や考え方に気づくことができた。</li> <li>・ 自主的に参加する意欲の大切さについて学んだ。ボランティアに参加するにあたって、いつでもどのような内容のボランティアが行われるのか調べるところから大変さを感じた。インターネット上でボランティアを検索したが、検索する意欲がなければそのボランティアが行われること自体知らないままで過ぎてしまうと思う。自分に何かできることはないか、困っている人はいないかという気持ちを持って積極的に手をあげる姿勢を得ることができた。</li> <li>・ 幅広い地域の方々と連携しながら活動ができ、普段感じることのできない感謝の感情を経験することができた。今までボランティアをする機会がなかったので、この機会を貰えたことで自分自身の成長にもつながり、貴重な経験ができたなど感じた。今後も積極的に参加し、誰かのために行動できるような人になりたい。</li> </ul> <p>社会貢献への考え方は、入学時に「何らかの方法で地域に貢献していきたい」と考える学生が72.8%であったのに対し、卒業時には90.4%に増加した。以上より、学生は地域での活動をとおして、社会貢献の意識向上につながった。</p>